

第4回 レポートの書き方 (1)

要約してまとめる

文献の要点を的確に読み取り、その主張や意見を手短かにまとめるのが「**要約**」です。的確な要約をするには、内容を十分に理解していなければできません。要約の練習をすることで、読み解く力を身につけることができます。

パラグラフに注目して読み解く

パラグラフの日本語訳は「段落」ですが、文書全体の役割上、「パラグラフ = 段落」ではありません。

- **形式段落**：文頭の一文字が空白で始まる、ひとまとまりの文章
- **意味段落**：一つ以上の段落で構成される、**意味上のひとまとまりの文章**

パラグラフには次のような特徴があるので、読み解くときに注意しましょう。

1. **ひとつのパラグラフには、ひとつの意味や大事なポイントがある** (大原則)
2. 重要なポイントは、段落の冒頭や末尾にあることが多い
3. 接続詞や形式段落をつなげる文章に注意して、段落同士のつながりを見る (つながりがある パラグラフ)

種類	働き	接続詞の例
付加	別の要素を付け加える	そして、しかも、さらに
理由	理由や根拠を述べる	なぜなら、というのは、その理由は
対立	反対の要素を述べる	しかし、けれども、反対に、
転換	話のながれを転換する	~だが、ところが、むしろ
出発点・並列	同じ要素を述べる	まず、第一に、第二に、第三に、同様に
例示	具体例を示す	たとえば、その一つが~
解説	わかりやすく説明する	すなわち、いいかえれば、つまり、要するに
帰結	理由や原因の結果を示す	~ので、~から、だから、したがって、それゆえ
補足	説明を補う	ただし、ただ、もっとも

キーワードやキーセンテンスに印をつける

- **キーワード**：ひとつの段落や章・節のなかで、繰り返し出てくる重要な語句
- **キーセンテンス**：キーワードを含む文章、重要なポイントと思われる文章

蛍光ペンや付せんなどで、キーワードやキーセンテンスに印をつけておけば、理解を深めたり、効率良く読み解くのに役立ちます。

要約して内容を整理する

- 正確に読み解けているかを確認するために、要点を押さえる
- 自分で勝手に意味をつけたり、見当違いの解釈をしないようにする
- 段階的に要約していく (要約の過程で、解釈に必要な部分のみをまとめる)

段落・パラグラフの要約

節・章の要約

文献全体の要約

要約の大まかな手順

1. パラグラフのつながり (接続詞など) に注目して、全体の構成を把握する

2. パラグラフ(または、節・章)ごとに、キーワードやキーセンテンスを見つける
3. キーワードやキーセンテンスをもとに、パラグラフ(または、節・章)ごとにまとめる
 - 並び替えや言葉の言い換えをしてもよい
4. まとめたものを適切につないで、要約を完成する

文章を読み解く

文章を読むときには、キーワード(カギになる語句)やキーセンテンス(カギになる文章)、段落をつなげる言葉(接続詞など)に気をつけることが大事です。さらに、次のような文章の構造にも注目しておきましょう。

トピック・センテンス

パラグラフ(意味上のひとまとまりの文章)は、ひとつの話題(トピック)についてだけ扱うという特徴があります。これを「1パラグラフ1トピックの原則」といい、論理的な文章(レポート、論文など)はこの原則にしたがっています。

そして、そのパラグラフで書いた人が主張したいこと(トピック)を説明する文章を、「トピック・センテンス」といい、パラグラフの中で重要な部分です。一般的には、パラグラフの最初に書かれています。各パラグラフのトピック・センテンスを読んでいけば、大まかな内容を読み取ることができます。

議論の展開

議論の展開(話のつながり)には、さまざまなタイプがあります。ここでは、よくある議論の展開を3つのみ紹介します。

【弁証法的展開】

正(命題)・反(反対命題)・合(総合)の3つの部分からなる展開で、古典的なタイプです。あるテーマについて、自分の意見(正)と、それに対立(または矛盾)する意見(反)を述べ、2つの意見を総合して新たに導き出された意見(合)を述べます。

【因果による展開】

まずテーマとなっている事実や事象を述べたあと、その原因を明らかにし、さらに原因から生じた結果を示して、最後にテーマに対する解決策を示すというタイプです。

【比較による展開】

あるテーマについて2つのものを比較・検討するために、まず2つのものの共通点や類似するところを述べ、次に相違点を述べて、最後に全体を総合的に説明するというタイプです。

事実と意見の区別

文章には、「**事実**」と「**意見**」が混ざっています。文章を読み解くためには、これらを区別することが重要です。

事実とは、出来事や誰もが知り得る情報など、客観的(誰が見ても同じように受け止めるられる)なものです。また、意見はどちらかといえば主観的(その人だけが考えたり感じるかもしれない)なものです。

しかし、意見の中にも、「**客観的な事実**」を根拠とした意見、つまり「**事実に基づいた意見**」があります。この「客観的な事実」と「事実に基づいた意見」を明確にすることで、書いた人の考えを読み解くことができます。

参考文献

- ・藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」, 北大路書房(2006.03)
- ・中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナビゲーター」, くろしお出版(2007.04)
- ・学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版(2011.04)
- ・専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」, 専修大学出版局(2006.04)
- ・佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック・スキルズ」, 慶応義塾大学出版会(2006.10)